

## 「やっぱり缶でなくちゃ！」 その要望に応えた底抜き缶

### ■ 困惑 ————— ある建築現場にて

「おい！この缶、どっか捨てとけ！」  
使い終わったシーリング缶。まさに邪魔者扱い。



### ■ 企業イメージ ——— 不法投棄現場にて

「こんなのが捨てられてちゃマズイだろうが！」  
見れば、シーリング缶には大きくメーカー名が・・・。

### ■ 対策無し？ ————— シーリング材メーカーの会議室

「もっと捨てやすい紙容器とかにしたらどうなんだ？」  
「ダメですよ。2液を攪拌するんで強度が必要だし、外の放置されて濡れちゃったら紙はグジャグジャじゃないですか。やっぱり缶でなくちゃ！」  
「じゃあ、どうすんだ！」

### ■ 投げかけ ————— 缶メーカーとの折衝

「スチールの缶って、放っておいても錆びて土に帰るし、再資源化も簡単だからリサイクルの優等生なんですよ」  
「それにしたって、こう捨てにくちゃ話にもならないじゃん。丈夫だからかたんには潰せないしさあ」  
「簡単に潰すことができれば・・・。だけど強度も必要だし、ウーン、これは難しい・・・」

### ■ 要望に答える ——— 底抜き缶実現！

建築現場での必需品のヘラを持って  
「見ててくださいね。底にスコアが入っているでしょ。  
そこに、こうヘラで切り込みいれるんですね。  
もう、手で簡単に潰せるでしょ？ほら、もうペッチャンコ」



### ■ リサイクルへ ——— 再び、ある建築現場

「おい、あの使い終わった缶どうした？」  
「もう潰して積んでありますヨ」  
「よっしゃ、じゃあ帰るか！」



**「やっぱり缶でなくちゃ！」**

その要望に応えた意味は大きい・・・。

協力／三国金属工業株式会社  
全日本一般缶工業団体連合会